

■大川小映画学ぶこと多く

石巻市大川小の津波訴訟原告遺族らの歩みを追ったドキュメンタリー映画「『生きる』大川小学校津波裁判を闘った人たち」を見た。

東日本大震災から数年後、大川小を訪れたことがある。そばに小高い山があり、すぐに逃げていけば、犠牲になった児童74人は助かったのではないかと思っただ。なぜ、山に逃げなかったのか。

理由を知りたいと立ち上がった遺族たちは訴訟に踏み切り、5年に及ぶ裁判で「画期的」と言われる判決

を勝ち取った。遺族たちのわが子への思いが勝利したと言えよう。

映画を見て改めて思うのは、学校が子どもたちの尊い命を守るためには、日頃の意識と行動のありようが重要だということだ。

地震国の日本では、巨大地震が発生する可能性は高いが、予知することは難しい。でも、大川小のように、助かるはずの命を救うことができなかったことを決して忘れてはならない。

震災から12年、私たちは多くの教訓を得たはずだ。映画「生きる」からも学ぶことは多い。多くの人に見てもらいたい。